

ハイデルベルク信仰問答より

問 111 それでは、この戒めの中で、神は、あなたに何を求めているのですか。

答え それは、私が自分でできるところ、また許されているところでは、どこでも、隣人の益になるために働き、自分が他人にしてほしいと思うようにしてあげ、貧しい人々をその必要に応じて助けることができるために、十分に自分の務めにいそしむことであります。

〔別訳〕

わたしが、自分になしうる限り、わたしの隣人の利益を促進し、わたしが人にしてもらいたいと思うことをその人に対しても行い、わたしが誠実に働いて、困窮の中にいる貧しい人々を助けることです。

第八戒 盗んではならない。(出 20:15)

問 110 では「盗む」という事柄を多角的に捉え、「盗み、強盗」「不正なごまかしやたくらみ」「不正な目方、寸法、人を欺く広告あるいは商品、偽造貨幣、法外な利息」、更に「一切の貪欲」「賜物の浪費」という具体的な例が挙げられました。人間社会には大小様々な形での「盗み」があることを示し、神が一人びとりの人間の必要を満たすために与えているものを他人が搾取してはならないことを教えています。問 111 ではそこからもう一步踏み込んで、単に「盗まない」生き方に甘んずるに止まらず、より積極的なキリスト者としての生き方を教えています。それは、「私が自分でできるところ、また許されているところでは、どこでも、隣人の益になるために働き、自分が他人にしてほしいと思うようにしてあげ、貧しい人々をその必要に応じて助けることができるために、十分に自分の務めにいそしむこと」であると言われます。今日はこの内容を深掘りしてみましょう。

①隣人の益になるために働き

私たちが地上で担っている仕事は、自分と家族の生活のためだけでなく、常に他の誰かの役に立つことを目的として取り組むとき、与えることでしか得られない喜びが伴うものとなるでしょう。人の人生とは、「如何に得たか」よりも「如何に与えたか」によって、その質が問われるものとなります。そして、与える人には更に多くのものが神から与えられる、そのような「良循環」が生じるのです。

与えなさい。そうすれば、自分にも与えられる。人々は升に詰め込み、揺すり、溢れるほどよく量って、懐に入れてくれる。あなたがたは、自分の量る秤で量り返されるからである。

(ルカ 6:38)

②自分が他人にしてほしいと思うようにしてあげ

このことばをより理解するには、私たちは人に何をしてもらおうと嬉しいかを考えてみる必要があるでしょう。稼ぎがなかった頃、人は「貰う」以外に何かを得る手段がありませんでした。そのような人が喜ぶことを考え、機会を見つけてプレゼントを送ってくれる人がいたり、学費をサポートしてくれたりすることがあります。そのように行動する人は、おそらく過去に自分も「与えられた」経験があるのであり、自分が受けたと同じように誰かにしてあげたいと考えているのでしょう。詰まるところ、人はすべてのものを神からいただいているのであり、その一部を誰かのために用いることによって神にお返ししているのです。

あなたがたもこのように労苦して弱い者を助けるように、また、主イエスご自身が『受けるよりは与えるほうが幸いである』と言われた言葉を思い出すようにと、私はいつも身をもって示してきました。(使徒 20:35)

③貧しい人々をその必要に応じて助ける

「貧しい人々」は社会のそこかしこにおいて、常にどこかに必要があります。世界中にいる本問答書の読者の中には、その人自身が貧しさの中にあることも少なくないでしょう。しかし、キリスト者には如何なる境遇にあっても豊かに生きる道が教えられています。それは、たとえ多く持っていなかったとしても誰かのために何かをささげることができるという思考であり、数字では測ることのできない豊かさが存在するということです。

そこへ一人の貧しいやもめが来て、レプトン銅貨二枚、すなわち一クアドランスを入れた。イエスは、弟子たちを呼び寄せて言われた。「よく言っておく。この貧しいやもめは、献金箱に入れている人の中で、誰よりもたくさん入れた。皆は有り余る中から入れたが、この人は、乏しい中から持っている物をすべて、生活費を全部入れたからである。」(マルコ 2:42-44)

各々どのような境遇に生きていたとしても、神の御前に積極的に生きることができます。そして、神は私たちの生き方を確かに見ておられます。「盗んではいけない」という戒めは、「罪を犯さない」だけでなく、むしろ神の御前に豊かに生きていく道を教えているのです。主イエスが資産も家も何も持たずとも、人々に福音を宣べ伝え、病を癒し、生きるべき道を教え、最後は自分のいのちをささげた、そのような生き方を目指していると言えます。